

## (5) ストック

### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
モザイク病 (TuMV, CMV) (アブラムシ類)	①被害苗や株は直ちに取り除き、適切に処分する。 ②育苗期には目合い1mm以下の防虫ネットなどにより、アブラムシ類の飛来を防ぐ。	①ウイルスを媒介するアブラムシ類を農薬で防除する。 (例) アセタミプリド水溶剤、くん煙剤 (モスピラン顆粒水溶剤、モスピランジェット) イミダクロプリド水和剤 (アドマイヤーフロアブル) ピリフルキナゾン水和剤 (コルト顆粒水和剤) ピメトロジン水和剤 (チェス顆粒水和剤)
	【参考事項】 アカザ科、アブラナ科、キク科、ナス科、マメ科植物にも発生し、アブラムシ類により伝染する。	
菌核病 (Sclerotinia)	①過繁茂にならないようにするとともに、通風、換気、排水を良くし、過湿を避ける。 ②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。	①農薬を予防的に散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシン水和剤 (ポリベリン水和剤) チオファネートメチル水和剤 (トップジンMゾル、トップジンM水和剤)
	【参考事項】 被害株にできた菌核が落ちて伝染源になる。菌核は、土壤中で2～3年生存する。キャベツ、ナス、レタスなど、各種作物を侵す。発病の適温は15～20℃である。	
炭疽病 (Colletotrichum)	①発病ほ場の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。 ②頭上からの灌水を避ける。	①農薬を予防的に散布する。 (例) チラウム水和剤 (チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル)
	【参考事項】 被害茎葉上に形成された孢子が雨滴や灌水の飛沫で伝染する。発病の適温は20～30℃である。	
コナガ	①育苗期から目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。 ②周辺のアブラナ科野菜での発生に注意する。 ③ほ場周辺の除草を行う。	①定植時に粒剤を全面土壌混和する。 (例) カルボスルファン粒剤 (ガゼット粒剤) ベンフラカルブ粒剤 (オンコル粒剤1、オンコル粒剤5など) ②発生初期から農薬を散布する。 (例) エマメクチン安息香酸塩乳剤 (アフファーム乳剤) クロルフェナビル水和剤 (コテツフロアブル) レピメクチン乳剤 (アニキ乳剤) ③微生物農薬を利用する (微生物農薬の項参照)。 (例) BT水和剤 (エスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤など)
	【参考事項】 特に秋の幼虫の被害に注意する。 散布剤は葉裏にも薬液を十分散布する。 抵抗性系統を発生させるおそれがあるので、同一系統農薬の連用は避け、ローテーション防除に努める。	